

第2回「全国木のまち」サミット 2016
in Hayakawa town

株式会社 佐野建築研究所

「早川町らしさ」に向き合い 町の再出発と位置付けた 新庁舎づくり

新庁舎づくりに町民がかかわり、町の将来を考える

設計段階より、ワークショップの開催、町民インタビュー、様々な町民団体への意見徴収を行った。



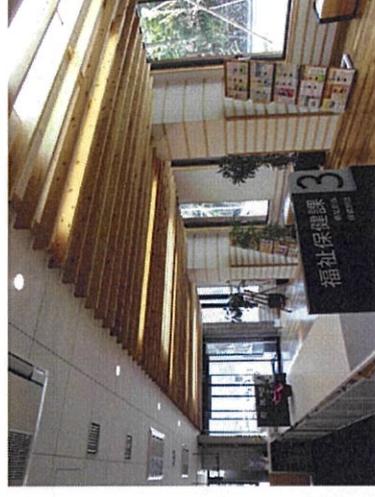
建設途中では、町民へ向けた現場見学会を開催し、新庁舎にどのような地元産木材が使用されているか、新庁舎はどのようなにつくられていくのかレクチャーを行った。

特に子供たちには、地元産木材に触れ、地元の林業を身近に感じてもらう試みを行った。



地元産木材利用の追及

間伐材や節のある木材、構造材に使用する芯以外の部分を積極的に利用し、地元産木材を使用した家具、内装材を製作した。あえて色合わせをしない等内装材としては、はじかれてしまいがちな部分を使用することで丸太を使い切る課題に取り組んだ。今後の使用過程において、節抜け、色焼け等の経年変化を許容することで、地元産木材の利用価値を広げた。



記憶の継承

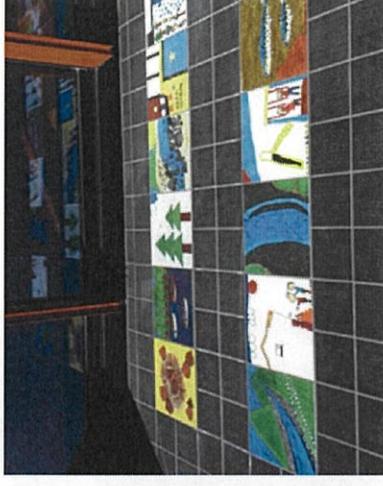
新庁舎へ取り付けた旧庁舎の館名板



再利用した町長室の表示灯



子供たちが早川の四季を描いた外構タイル



森林の整備・再生



□ 建築設計における様々な壁

a. 材料の加工工程の壁

早川町産材切出し→秋田工場にて集成材加工→郡山にてプレカット加工→早川町にて建込み

b. 建築基準法・消防法の壁

準耐火構造により、天井見付面積の1/10しか木材を露出出来ない

ルバーボキ(スギ)
→ 不燃物とするけど
なならない 100分

c. メンテナンスの壁

外装材に木材は用いず、内装材に限定使用

d. 補助金の壁

単年度補助金のため、工事期間とのギャップが大きく、書類が煩雑

